Japanese Journal of Ichthyology
Vol. VII, Nos. 5/6
June 30, 1959
魚　類　学　雑　誌
第 7 巻　第 5/6 号
1959 年 6 月 30 日発行

Published by the **Nippon Gyogaku Shinkokai**
Tsukiji 5-chome, 1-banchi, Kyobashi,
Tokyo, Japan

魚類の生活色に就いて（第8）

黒　田　長　禮

On the life colors of some fishes—VIII

Nagamichi KURODA

(112) **クロテンジクダイ**（クロイノモチ）*Apogon niger* DÖDERLEIN. 1946年11月19日の志下沖夜手繰網に入つた幼魚2点を入手。全長 39, 46.5 mm 新鮮色：背方は帯オリーブ褐色，体側から下方は色淡く，淡黄金色を帯び，それに不判明な7～8条横帯（灰色）がある。尾柄後端にも灰色の横帯が存する。頭側は帯淡紅灰金色，腹方も大体同様。ID. は灰黒色，IID. は灰黒色で，上後端が黄色。C. は截形で，僅に凸状となり，淡黄色で，各条の先方に淡紅色を帯び，基部近くの条に灰黒色の小軸斑がある。P. は淡紅色で，透明無斑。V. と A. は真黒色。虹彩は銀色で，上方が暗褐色，内細輪は擬白色。駿河湾では漁獲例は少い方である。

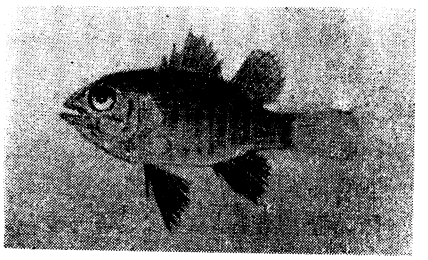

Fig. 1 クロテンジクダイ幼魚
志下　全長 46.5mm（著者原図）

(113) **テツポウテンジク**（テツポウイシモチ）*Apogon kiensis* JORDAN et SNYDER. 1946年11月10日千本沖手繰網に入つた成魚1点を調べた。全長65mm，背面の地色は淡灰色で，体側の中央1縦帯は黒色で太く，この帯の上下に夫れよりも細い帯蒼黄銀白色の各1縦線があり，光線によつては光を有する。中央黒縦帯以下の体側から腹方は淡紅色を帯びたる銀白色，鰓蓋には多少黄金光を発する。ID. は淡紅色，IID. も同様で基部近くに1暗紅赤色の細縦線が通るが，鮮明ではない。A. も同様である。P. と V. とは淡紅色無斑。C. は同様淡紅色ではあるが，中央の2～3軟条は黒く，それは体側の黒縦帯に連続する。その C. の基底部にありては擬円形の黒色を形ずくる。D. と中央黒帯との間で，D. に接して2条の灰黒縦線を認める。この最後の点は *A. quadrifasciatus* CUVIER の記載に近ずくが，黒色の中央帯は吻端から背鰭に向わずして，眼を通して存在する点は明かに *A. kiensis* の記載に合致する。ID. は6条で7条でない。夫故本篇では後の学名を採用した。しかし若しそれが個体変化の為であるとすれば，前の学名

の方を取るべきであろう。虹彩は銀色で，上方暗褐色，内細輪は白色。駿河湾には普通。

(114) **クロホシテンジク**（クロホシイシモチ）*Apogon notatus* (HOUTTUYN). 1947年1月15日志下にて拾得せる幼魚1点（全長 62mm）背と体側は淡灰色，鰓蓋及び腹は銀白色。上顎端と下顎端は擬黒色。眼先きに三角形の1擬黒色斑がある。項側に1小黒円斑があり，尾柄終端近くにも1中黒円斑がある。ID. は7条で淡バラ色，第3～6の先端は黒色。IID. も淡バラ色。C. は同色であるが，稍々色が美しい。P. と V. とは共に無色透明。A. は白地に淡紅色を帯びる。この標品は成魚に比し体高が低く，細長く見えることはネンブツダイやテツポウテンジクの幼魚又は稚魚の場合に全く等しい。虹彩は銀色，上方は暗褐色，内細輪は淡黄色。駿河湾では本種は頗る稀種に属する。

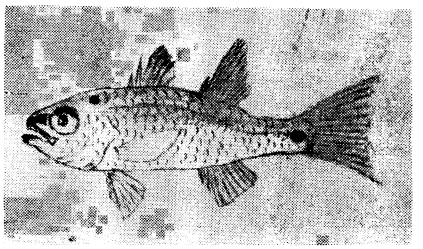

Fig. 2 クロホシテンジク幼魚
志下 全長 62mm（著者原図）

(115) **ネンブツダイ** *Apogon semilineatus* T. et S. この種は当湾にては最も普通のものであり，原色図としては岡田・内田・松原著日魚図説 pl. 62 にある通りであるが，只虹彩が黄金色を呈する点が異るが，これがいつでもそうであるか否かはまだ判明しない。（1955年9月1日調査）

(116) **コスジテンジク**（コスジイシモチ）*Apogon endekataenia* BLEEKER. 1955年9月1日志下磯ケ根で釣獲のもので全長 101mm のものを見ると体色は大体ネンブツダイに等しいが，最も異る点は虹彩で帯赭暗褐色であつて淡色でないことにある。又各鰭が皆一様に淡紅色を呈していて余り濃淡の差が見られない。体の前方の地色に黄金光を示す点はネンブツダイと同じ傾向である。駿河湾ではオオスジテンジクよりは少い。前記図説，pl. 63 の図はよくない。

(117) **オオスジテンジク**（オオスジイシモチ）*Apgon doederleini* JORDAN et SNYDER. 1955年9月1日志下磯ケ根で釣獲の全長 100 mm を調査するに，コスジテンジクと大体地色は同様であるが遙かに濃色で，体の前方の黄金色を帯びることが少ない。最も著しいのは D., A., C. の3鰭は濃紫紅色を呈するのに，P. と V. とは鮮紅色を示して頗る美しいことである。又虹彩はコスジテンジクと同じく帯赭暗褐色である。駿河湾では普通であるが個体数は少ない。

(118) **チビキ**（ハチビキ）*Erythrocles schlegeli* (RICHARDSON). 方言アカサバと云う。適名と思う。1952年8月3日沼津魚市場で400匁1尾を入手した。「瀬の海」の辺りで漁獲。全長547，体長 462mm（多数の内の最小品）。吻，囲眼部，頭上は暗レーク赤色。上下唇は厚く，暗バラ色。上顎骨の上半は頭と同色，下半は粟実型で淡桃銀白色を呈し，この部分が目立つ。鰓蓋は淡紅色，その上部に銀白斑がある。上頸から大体側線上方，尾に至る間はオリーブ紅色で，前方では多少側線下に迄及ぶ。体側全部は淡紅色である。D. は各条は暗紅色，膜は淡紅白色である。A. は全く同様。P., V. 及び C. は暗紅色が強く，V. の軟条は白いが，膜に赤条がある。虹彩は赤色。

チビキを切身のカラ揚として試食したが，肉味はサバに等しく，サバより堅く，白色であるが，血合に富む。勿論上魚ではないが，斯くの如き新鮮のものなれば先ず味は悪くはない。しかしヒメダイ（アカトンボ）には劣るらしい。岡田，内田，松原：pl. 88, fig. 1 は立派に出ている。

(119) **キントキダイ** *Priacanthus macracanthus* CUVIER. 1946年9月6日志下イワシ夜網にて数尾獲られ，全長 101～112mm を測つた。背面は暗バラ色で，多少暗赤色の4～5条の斜横帯を有するも，時を経ると消え一様の暗バラ色となる。体側中央以下は銀白色で多少淡桃色及び微黄光沢がある。各垂直鰭は淡色地にオリーブ色の擬円斑があり，2縦列又は3縦列をなしている。V. の地色は稍々濃色。D. 棘部の膜の上方と V. と A. の縁にも多少黒縁がある。P. は基部が微黄

色，先半は淡桃色。C．は美赤色で，後縁は開けば僅かに凹形で，閉じれば凹入が著しくなる。その後縁に細い黒縁がある。虹彩は鮮赤色であるが，時を経ると赤色は消え銀色と変る。

(120) **チカメキントキ** *Priacanthus boops* (SCHNEIDER). 立派な原色図は前記3氏著 pl.72, fig. 1にある。私の次に報告するのは淡色型の新鮮色であつて珍らしい例と思う。1948年2月29日伊豆大瀬崎沖の150～250尋でのトロール漁獲物中の1点全長200mmを入手したものである。通常見る様な朱紅色はなく，背方は暗帯紅アンバー褐色で，著しく濃く，この色は側線から上方に限られ，前方では側線に達するが，中部から後方では側線と可なり離れた上方に限られる。この暗色部は通常の個体でも同様に濃く見える処と一致する。頭側及び体側は一様な帯黄金淡紅赤色で，稍々紅色に富めども，黄金光は光線により強くその為に朱紅色とは大に異つて一体に色が淡い。これはキアマの如く多分棲息所が通常のものよりも深い為かと思う。D．の各軸は淡赤色，幾分紅色を帯び棘部の膜全部と軟条部の始めの3膜とは灰黒色を呈し，棘部の膜上縁は殆んど真黒色の細縁を有する。P．は帯淡紅白色，V．は軸が淡紅色，膜は黒いが真黒ではなく，中央から基部近くに稍々判明の淡赤色の2～3点があり，軟条の先部も黒い。A．は各条淡紅色，膜は淡赤色で，膜には灰黒色の2～3小点があり，稍々不判明，軟条の先部は灰黒色。C．も淡赤色で，軟条は淡紅色，尾の後縁は少し凸状となるが，この部に灰黒色の余り太からざる縁がある。腹方は幾分銀白色となる。虹彩は鮮橙赤色，瞳孔は光線により黒く見えるが，又キントキダイやクルマダイと同様に透明の飴色を呈する。方言ではキンメ又はキンメダイと云う。

(121) **クルマダイ** *Pseudopriacanthus niphonius* (CUVIER). 中成魚の図は前記3氏著，pl. 72, fig.2 にある。稚魚（全長 47mm）1点を 1947年1月22日に桃郷海岸にて拾得した。体は地色淡鈍桃色で，項から尾柄迄の間に5横帯があり，帯紅黒灰色を呈し，中央の3帯は巾広いが，下方は腹方に迄は達しないで，次第に消失する。鰓蓋は暗紅色，腹方も同様で，下顎や鰓条部は淡紅白色，V．基底から前方は白色。D．の棘は淡紅色を帯び，膜は黒色。第9～10棘は紅色を帯び，体側の汚紅色横帯に連なる。D．軟条部とC．とは甚だ淡き黄色に小又は微小の黒点を散在する。P．は淡灰色で，先方は幾分淡紅色を帯びる。V．真黒色。A．は灰黒色，後方の先方は幾分淡黄白色となる。虹彩赤色，瞳孔は黒く，見様によつて透明の淡飴色を呈する。

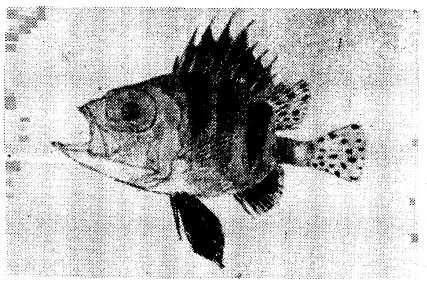

Fig. 3 クルマダイ稚魚
桃郷　全長 47mm（著者原図）

成魚及び幼魚（微かに灰黒横帯の残るもの — 前記3氏著 pl. 72）とは全く色彩と斑紋とを異にし，殊にD．棘部，V．及びA．の黒きこと，D．軟条部とC．が赤くなく，且つ小黒点を散在することは著しい点である。

(122) **ムツ** *Scombrops boöps* (HOUTTUYN). 稚魚については已に報告した。ここには1947年1月10日沼津市獅子浜沖で釣獲の中大魚2尾を得て調査したものを掲げる。全長 228mm 背面は頭上から紫褐色（赤味は多少あり）で，側線から以下は次第に此色を失い，体側は光ある銀蒼色となり，各鱗には淡灰色の1斑を有する。上下唇・頭側・鰓蓋は銀蒼色で光があり，鰓条は淡蒼紅色である。上下顎の歯は犬歯状。尾柄後端に多少淡紅色を帯びる。ID. は灰色で，第1～5棘間の膜は擬黒色，IID. は灰オリーブ色で，色淡く，上方は多少濃色である。P．は淡オリーブ色，V．は帯淡オリーブ白色で，基部より中央に淡紅色を帯び，A．の棘部は白く，他は淡オリーブ色，C．は灰黒色である。虹彩は暗黄金色で，瞳孔前後に褐色の各1個の汚斑がある。

(123) **ツボダイ** *Quinquarius japonicus* (STEIND. et DÖDERL.). 1947年12月27日伊豆戸

田沖トロールに中小 10 尾程が入つた。方言ではタバコイレ（形による名）と称する。調査した1点は全長 157mm で中幼魚である。虹彩は銀灰色，外細輪は暗褐色である。体色は全く岡田・内田・松原著，pl. 87，fig. 2 に一致するので略す。

(124) **オオメハタ**（ウミブナ）*Malakichthys griseus* STEIND. et DÖDERL. 1946年3月27日土肥沖手繰網にて漁獲の1尾（全長 169mm）を入手した。背は汚淡紅灰色で，其他の部は銀白色であり，凡べての鰭は甚だ淡き紅色である。虹彩は銀色で，瞳孔は透明の鉛色である。

(125) **オオモンハタ** *Epinephelus areolatus areolatus* (FORSKÅL). 1945年7月16日に志下磯ケ根で漁夫の釣獲した中成魚（全長 380mm，体量 195 匁——♀）を入手した。体の斑紋は体に比し小さく，瞳孔大より大なるものは寧ろ少くなる。尾の中央にある白狭縁は頗る明瞭に存する。下顎は上顎より突出する。1934年8月3日に我入道ヒイチ根で幼魚を釣る（全長 100mm）。体の斑紋は帯灰小豆色で，瞳孔大よりも大なる方が多く，5～6角形のものが著しく見える。主に体側面の中部から後部にかけて顕著である。C. の中央白縁はこの幼魚では不判明で殆んどこれを欠いている。又 P. にも成魚の様な斑紋はなく，白色無斑である。

1946年11月10日千本沖手繰網に入つた本種と思われるものの稚魚（全長 71.5 mm）を入手した。成魚よりも著しく赤味多く，先ず淡小豆色に近く，それに円点は暗色でなくして淡赤栗色で，大体4縦列に並んでいる。D. 棘部は淡オリーブ色で，上線は黒赭色，それに2縦列の擬黒色点列があり，D. 軟条部は地色淡灰黄色で，それに同様の2縦列の同色斑があり，上縁近くには淡汚紅色点の1縦列をなす。P. は淡色の他に不判明なるも美しき6波形の朱色横線があり，先端は朱色。V. は灰黒色，無斑〔親では有斑〕。A. は淡黄色の地に3擬黒色の縦点列があり，下縁は灰オリーブ色。C, はオリーブの地色に4擬黒色楕円的横点列があり，後縁近くは灰オリーブ色の横帯をなし，そしてC. 後縁は少しく凹み，そこは狭き淡黄色の縁〔親では白い〕となる。吻が親に比し，余程尖る様に見える。虹彩は上方暗褐色，下方鈍橙色に暗褐色の汚点がある。

以上と同じ位の稚魚は志下手繰網にて1946年11月20日（全長 70.5mm）と11月21日（全長 65mm）とにも漁獲されて入手した。

1945年8月に獲た中成魚は食用とした。煮付けとして味は佳良であつたが肉は軟く，多少ヌルヌルし，卵巣もコシヨウダイ卵巣に比し味が劣る。ハタ類中マハタなどよりは味が劣るものらしい。

(126) **ホウセキハタ** *Epinephelus areolatus chlorostigma* (C. et V.). 1957年8月10日沼津市営千本水族館にこの種と思われる1尾を観察した。体には六角形斑を密布し，それに暗色の5横帯が見え，C. の外線は白くなかつた。

(127) **ク エ**（モアラ）*Epinephelus nebulosus* (C. et V.) 或は *E. moara* (T. et S.)〔松原氏による〕. 1957年8月26日志下にて1尾（全長 240mm）を拾得。全体灰紫色の地色に6条の灰褐暗色斜横帯があり，各横帯は処々中断し，時に下方2分したり，又S字形斑となるのもある。眼の後方からこれらの線が射出する形となる。D.，P.，A.，V. は凡べて帯黄オリーブ濃色で，D. の膜は淡色。P. は他の鰭より淡色。P. と C. の後縁は淡色で，C. のは白縁，P. のは淡赭縁をなしている。虹彩は黄金色である。

今回のは D. XI, 15; A. III, 7 であるが，田中氏水産動植物，p. 184 では D. XI, 14; A. III, 8 とある。

(128) **コモンハタ** *Epinephelus morrhua epistictus* (T. et S.). 1945年12月4日志下沖手繰網で漁獲の1点（全長 215mm）を調べた。頭から背面は暗褐色，体側以下は余程淡色となり，オリーブ灰色である。腹方は帯白灰色である。D.，V.，A. 及び C. は淡オリーブ灰色で，多くの小黒円点を密布し，V. には此斑が少ない。P. は同色で無斑。頭側も体側と同色であるが少

しく淡紅色を帯びる。体の上半には少数の黒円点が散在し，体側中央には眼の後方からC．基底に達する黒色〔記載では黒褐色と書かれたのもある〕の1縦走点列が著しく，各斑点間には多少褐色線があるので，丁度数珠状となる。P．上方では円斑は稍々2列となる。鰓蓋前骨後縁には小鋸歯があり，その下後縁には著しい5鋭棘がある。虹彩は暗褐色に黄金色を帯び，内細輪は黄金色。

1946年11月10日千本沖手繰網に入つた幼魚1尾（全長 113mm）を入手した。これは中魚や成魚に比し，体色は濃く，背方の地色は帯鉛色の紫褐色で，頭部は体と同色で一層濃色である。此幼魚では体側の斑紋は中央の縦点列の外，P．基部上方からも縦楕円的の黒斑の多少粗在の点列があり，都合2縦列線をなしている。D．棘部上方に暗赭色小点があり，C．の小黒斑は不規則にて稍々密にある。其他には特記すべきことはない。虹彩は黄金色，上方暗褐色，内細輪は黄金色である。

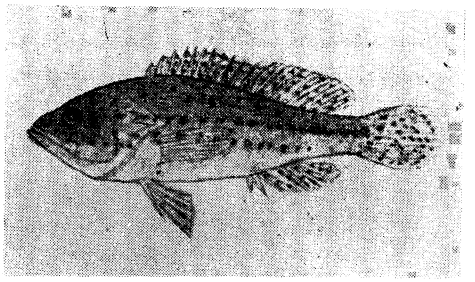

Fig. 4　コモンハタ幼魚
千本沖　全長 113mm　色が濃く，縦点列が中成魚よりも多い（著者原図）

1957年8月10日沼津市営千本水族館にて幼魚2尾を観察したが，その地色は水中にて淡紅灰色で，それに地色より少し暗色の六横帯あるのを認めた。これは活魚の游泳中のものであり，水揚げしたらば消えるのかもしれない。他の小斑点は普通の様に存する。

(129)　**オオスジハタ**　*Epinephelus latifasciatus* (T. et S.).　1946年4月23日志下沖手繰網に入つた幼魚1点（全長 96mm）を入手した。体側にはオリーブの巾広の3縦帯があり，その上帯の下縁・中帯の上下縁及び下帯の上縁は何ずれも細き黒縁を有する。又中帯の上下に各々巾広の乳白色縦帯があり，上下両顎に各白点1個宛ある。P．は淡オリーブ，V．は灰色，A．は殆んど黒色，D．はオリーブに2黒斑があり，D．棘部には2黒色の2縦帯があり，その間に1白帯がある。C．は白地に3～4黒縦帯と末端に黒点とがある。虹彩は銀色，内細輪は黄金色である。液漬後は体のオリーブの部分は褐色となり，乳白色の部分は淡褐色と変つた。駿河湾では先ず多からざる種に属する。

(130)　**マハタ**　*Epinephelus septemfasciatus* (THUNBERG).　老成魚は殆んど一様の暗紫色を呈するが，若魚では常に見られる様な条斑を有する。1946年11月10日千本沖手繰網で獲た極く稚魚（全長 45mm）に就いて記すと，体色は中幼魚と同様であるが，P．とC．とは美しい淡紅色透明で，C．の先方約 1/3 は朱色を帯びる。D．軟条部の後上縁に少しく暗桃色を帯びる。其他は特記する点がない。虹彩は黄金色に暗褐色汚斑があり，上方は暗褐色，内細輪は黄金色である。

(131)　**ア　ラ**　*Niphon spinosus*　C. et V.　1946年1月28日と3月25日とに志下手繰網に入つた稚魚2点（全長 35.5，60.5mm）を入手した。体の地色は帯蒼銀白色で，背面は濃灰褐色，過眼帯は黒褐色で甚だ明瞭で，尾柄上後端に達する。この帯と背との間に蒼白色の1縦帯があり，それは過眼帯よりは細い。過眼帯の下には巾広の帯蒼銀白色の縦帯があり，その下に灰色の稍々不判明な縦帯が存し，前方では殆ど消え，後方では尾柄下後端に達している。尾柄の上下端には各々黒褐色小斑があり，稍々明

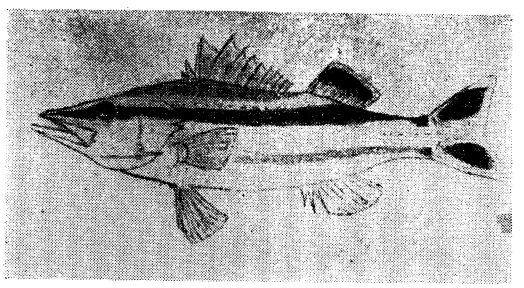

Fig. 5　ア　ラ　稚　魚
志下　全長 60.5mm（著者原図）

瞭。IID. 前部軟条に縦斑条の1大黒斑がある。C. には上下両葉に太き黒縦帯が各1個ある。D. 軟条の上縁とC. 上下両葉の先端及び中部とは白色。P. は淡黄色，V. と A. とは白色。虹彩は鈍黄銀色で，黒褐色の過眼帯は虹彩の内に入り込む。

Résumé

The part eight of this series contains descriptions of life colors of the species Nos. 112-131, with some notes on the fishes (several species of Apogonidae, Emmelichthyidae, Priacanthidae, Pomatomidae, Histiopteridae, and Serranidae) found in Suruga Bay, Japan.